

東堂陽一 議会便り 第18号(2-11)

平成19年 1月 1日発行

今号の内容

1. 新市民病院はどうなる？
プルサーマル計画は？
2. 11月議会で審議したこと
3. インターネット議会中継
防風林ならぬ防風車林
4. 教育政策を質す 他

重要課題が目白押し

1. 新市民病院はどうなる？(パート2)

掛川市・袋井市新病院建設協議会始まる(第1回は19年12月26日開催)

掛川、袋井各18名ずつ、合計36名の委員で構成される、新病院建設協議会が始まりました。この中には有識者10名や市民代表4名も含まれています。できれば、平成21年3月末の合意を目指してのスタートです。そこで合意が得られたとして、新病院の設計や建設はその後となりますので、完成は早くても今から4、5年先ということになります。



東京女子医大 大東キャンパス
(大学病院副院長が協議会メンバー)

いろいろな機会に市民の意見を聞きますと、

①病院統合で医師不足が解決するのか ②財政的に実現可能か ③場所はどこにするのか(どうするのか) ④ベッド数が減るかもしれないが大丈夫か、などが多く聞かれます。

これらの疑問・不安に明確に答えられる回答を作りながら、病院統合の合意を目指すこととなります。なお、最終判断は両市議会に委ねられています。合併協議会は傍聴自由であり、協議会ホームページの開設、協議会だよりの全戸配布も予定されています。

2. プルサーマル計画の受け入れは？

市当局は計画受け入れの結論。これも最終判断は議会へ

掛川市長は12月12日、臨時庁議で浜岡原発4号機へのプルサーマル計画受け入れの結論を出しました。今後、市としての最終判断は議会がすることになります。(次ページへ)

原発視察



私個人としては、議会での議論、会派の勉強会・視察、中部電力からの説明・聞き取り、原子力保安院の説明、各種講演会、有志での勉強会など重ねてまいりました。中電に対して若干の意見や注文はありますが、主要部分の安全性は確保されているとの判断をしております。

11月議会で審議したこと

1. 11月補正予算を可決しました(議案第113号~119号)

= 一般会計 補正規模は1億5,074万円 =

【主な歳出】

(1) 職員人件費減	△4,130万円	人事異動、給与改定他
(2) 新幹線掛川駅20周年記念事業費増	300万円	記念誌代
(3) 森掛川IC周辺基本構想策定費追加	500万円	IC周辺の利用構想をつくる
(4) ごみ減量大作戦事業費増	83万円	各地区説明会の費用
(5) 茶園改植推進対策事業補助金増	410万円	つゆひかり、さえみどりなど
(6) 道路橋梁維持費補修工事費増	1,000万円	11ヶ所分の維持修繕費

2. 市の財政状況と財政計画について(政策議会より)

掛川市は平成18年度の実質公債費比率(自治体の収入に対する実質的な借金の比率)が18%を超え、地方債を借りる時に県の許可が必要となる「地方債許可団体」になってしまいました。今すぐ市がおかしくなってしまうという心配は全くありませんが、要注意であることは確かです。

このため市当局は「公債費負担適正化計画」を作成しました。新病院建設を除く南北道や合併事業等、ある程度見通しがついているものを組み入れ、各種の工夫により債務を圧縮しながらの計画です。

これによれば、実質公債費比率が18%を下回るのは平成27年度になります。少なくともこの間は緊縮財政を余儀なくされ、厳しい財政運営が続くこととなります。



赤字を抱える自主運行バス



平成18年度 決算関係書類

3. インターネット議会中継（政策議会より）

今年視察をした市の多くで、議会中継をすでに実施していたのには、多少の驚きを感じました。ケーブルテレビやインターネットなどを利用しての中継ですが、議会を傍聴したくてもその時間の無い人や、議会に来るのが大変な人にはありがたい。市民への情報公開や市政への関心の喚起に役立つ効果が期待できます。

何よりも、文書を見るのとは違って、議会での発言をそのままの映像として伝えることができます。方法・方式により経費も異なりますが、以前よりは随分と安価になっています。市民に開かれた議会を目指すためにも、前向きに検討すべきだと思います。市長も賛成しており、条件が整えば、今年の9月くらいには実現するかもしれません。



視察状況（鎌倉市役所）
（議会中継など）

4. 掛川市生涯学習都市宣言を可決

本会議最終日（12月21日）に新「生涯学習都市宣言」が採択されました。宣言の言わんとするところや目指すもの、文章全体の印象もほとんど変わっていませんが、前のものより短く、現代に合わせたものとなっています。

防風林ならめ防風車林

民間会社2社が大東、大須賀の海岸近くに、合計18基の風力発電施設の設置を計画していることが明らかにされました。

高さは120メートルほど、羽の直径は82メートルほどで、概算事業費は2社合わせて94億円、総発電規模は約38,000キロワットです。これは一般家庭14,400軒分の電気量に相当するそうです。

地球温暖化対策には有効ですが、景観を損ねるおそれがあります。個人的にはあまり賛成ではありません。市は地元の同意が得られることを条件としていますが、議論を呼びそうな気配です。



大東シートピア付近の風車
（下にあるのは乗用車）

教育政策を質す（一般質問）

（質問のねらい）

(1) 「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」昔も今も物事の要、組織の要点は人材です。「人づくり構想」制定の機会に掛川市の考え、取り組みをたずねる。

(3) 地区集会のあり方について、各地区で問題点が指摘された。また、地区集会の形骸化も懸念される。幾つかの提案をしながら、集会の重要性の再認識を含めての質問をする。



19年12月11日登壇

（通告要旨：一部省略してあります）

1. 人づくり構想かけがわについて

- (1) 「新市教育への提言」からの見直しや付け加えはあるのか。また、掛川らしさはどうなのところか
- (2) 「新市教育への提言」では報徳精神を生かした生涯学習がうたわれていた。本構想の中にその記述はないが、どう考えているか
- (3) 「かけがわ教育の日」の実施をどう評価しているか。また、「大人の責任と協働」の合い言葉のもと、これからどのように展開していくか
- (4) 小学生の心と体の健全育成のために、衰退傾向にあるスポーツ少年団活動の充実策を講じることができないか

2. 全国学力テスト（全国学力・学習状況調査）について

- (1) 賛否両論のあるテストであったが、掛川市の考えはどうであったか
- (2) テスト結果の公表はどうするのか
- (4) テスト結果に対してどのような対策を考えるか

3. 市民の政治参加の手法として評価される市民総代会地区集会の質をさらに高めるために、また、より多くの住民が関心を持つために、以下の検討ができないか

- (2) テーマの地区での拾い上げ方

（質問を終えて）

派手さは無いが、人づくり、教育政策はとても重要です。今後も引き続き注目していきたいテーマです。地区集会に対する市長の取り組み方には疑問を感じます。改善・検討の言質を引き出したことは成果でした。